

水稲育苗のポイント



種子籾は必ず塩水選と種子消毒を行いましょ。

1 塩水選について

【塩水選】

塩水を使って種子を選別し、充実したものを使用して発芽のそりを良くします。

●食塩や硫酸を溶かした水に籾を浸け、浮いた籾を取除き、底に沈んだ籾だけを使用する。

●塩水選後は、種子を十分水洗いする。

※硫酸を使用した場合、廃液は液肥として使用できません。

※農協で購入いただいた水稲種子でも、塩水選及び病害虫防除の為、種子消毒を行って下さい。

比重	比重	比重
1.00	1.06	1.08
卵	卵	卵

	もち米	うるち米
食塩	0.8kg	1.1kg
硫酸	1.0kg	1.4kg

※水10リットルあたりの食塩または硫酸を加える量

2 種子消毒

【種子消毒剤】

テクリードCフロアブル(200倍)
スミチオン乳剤(1000倍)

目安は**種もみ1kgに対し
薬液2L以上**で浸種する。

●袋につめた種子を薬液に24時間浸けておく。
●種子消毒後は水洗いしない。

※テクリードCフロアブルで消毒した場合は風乾する必要はありません。

※詳しい使用方法は農薬ラベルでご確認ください。

3 浸種・催芽

水温と播種日数	
水温	浸種時間
15℃	5~6日間
20℃	4~5日間



●浸種日数は積算温度(温度×日数)80~100℃を目安にする。

●浸種はきれいな水道水の停滞水で行なう。

●浸種すると籾から糖分等が水に溶け出し、水が腐敗しやすくなるので1~2日に一度はゆとりと水を交換する。

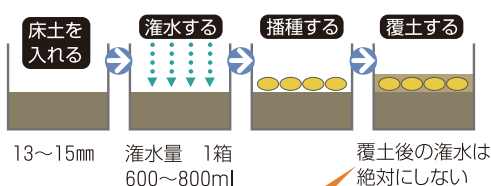
●40℃以上の水温に浸けると籾が死んでしまうので温度管理には十分注意する。

〈注〉苗箱、育苗器、健苗シート等の資材は使用前に必ず**イチバン乳剤で消毒**しましょう。

4 播種量と作業手順

箱を水平にして表面に水が浮き上がる程度に灌水します。灌水が多いと芽が細くなるほか、カビの発生にもつながります。

播種量/催芽籾175g(乾籾150g) 厚まきは禁物



空気がないと根がのびません

灌水量とカビの発生



灌水量と出芽の状態



灌水量1200ml

灌水量600ml

緑化苗の管理方法

緑化苗とは…播種後1週間程度の苗のことで、その後約20日間生育管理が必要な苗のことです。

庭先・畑で管理する場合

① 平らで日当たりの良いところに並べ、たっぷり灌水する。

※ホースの中の滞留水が冷水であることを確認してから灌水してください。

② 苗箱の上にベタ掛けて健苗シートを掛け、すきま風が入らないように、垂木(たるき)等を周りに置く。

※プール管理の場合は苗箱の高さの半分くらいに水を張り、均一に水をためてください。

苗代管理する場合

① 苗床は均等にならし、健苗シートをトンネルにして、水は苗箱の高さの半分以下にする。
(プール、苗代管理)

【注意】

健苗シートは長年使用していると固くなり、破れ易くなります。また保温効果も低下します。
健全な苗を作るために、**3年を目安に新しいシートに交換**しましょう。



以降、下記の③～⑦の管理をします。

庭先・畑・苗代ともに共通

③ 健苗シートを掛けている時は2～3日に一度苗箱の土が乾いていないかを何ヶ所か確認し、乾いたら灌水する。

④ 苗の草丈が10cm前後に生育すると、暖かい日にシートを取り、太陽にあてて根張りを良くする。

※初めて健苗シートを外す時は日差しが強い日中を避けて下さい。

⑤ 夜間の温度が低い時や、霜が降りる時は健苗シートを掛ける。

⑥ 健苗シートを取った後は、苗が萎(しお)れないように灌水する。

※庭先・畑で管理する場合は、毎日午前中に充分灌水し、その後乾燥が見られた場合は適宜灌水します。夕方以降の灌水はなるべく控えて下さい。

⑦ 田植時の苗は草丈15cmくらいが適期。(根張りの確認)
※根張りが悪い場合、葉が枯れない程度に灌水量を減らします。

緑化初期



良好な水管理



硬化中期



硬化後期



代かき時にシング乳剤を散布した場合は**散布から田植まで必ず7日間**空けて下さい。
田植前日～当日に苗箱処理剤を苗の上から均に散布します。

本田植付け本数は、1株当り3～4本(太植えは禁物)

◆詳しくは各購買店舗または能勢営農経済センターでお問い合わせ下さい◆

